

中上級者のためのオンライン教材

WEB-BASED LEARNING TOOLS FOR INTERMEDIATE AND ADVANCED JAPANESE LANGUAGE STUDENTS

山田玲子 山本かすみ 平井美香

Reiko Yamada, Kasumi Yamamoto, and Mika Hirai, Williams College

Abstract: Williams Japanese program has been developing web-based learning tools called Japanese Society for its advanced courses. JPS is for those who have acquired basic grammar and communicative competence to carry out daily life, but lack syntactic and socio-linguistic sophistication and the vocabulary to hold a sustained conversation or discussion in a much more formal context. The aim of JPS is to help students bridge this gap. It consists of six issues in modern Japanese society, which are commonly addressed when Japanese culture, history and politics are discussed. This paper illustrates the overall features of the JPS web-based program.

Keyword: eLearning, Multimedia, Web-based learning tools, Cultural study, Interactivity

はじめに

日本語教育が理論的にも実践的にも確立していくなか、初級中級の日本語学習者を対象にした教材の開発はすすんでいるものの、上級学習者を対象にした一貫性のある教材の開発は遅れをとっている (Yamaguchi, 1996)。ウィリアムズ大学では、会話を中心に日本語を学習してきた中上級者が読む力、発表や討論をする力、さらには論文等を書く力をつけることを目標に、日本の社会問題を題材にした教材のオンライン化を進めている。本稿ではこのオンライン教材『日本の社会』の開発状況を報告したい。

オンライン教材の概要

『日本の社会』のオリジナルは1985年より2年間ウィリアムズ大学で教鞭をとられた Dr. Eleanor H. Jordan が4年生の教材用に提供された。その後10年ほどかけてティーチングスタッフがカリキュラムに適した以下のような構成の全6課、各課4セクションからなるマニュアルとテープ付きの教材にまとめた (表1)。

第一課	結婚
第二課	会社制度
第三課	女性問題
第四課	高齢化社会
第五課	教育制度
第六課	日米関係

表1 JPS の構成

オンライン教材としては2000年より (Yamamoto, Kagaya and Yamada, 2000; Yamada, 2005) 徐々に開発を進め、2007年現在の Japanese Society version 3.0 では全6課のすべてのセクションをオンライン化すると共にリソース集、また多読用の補助教材も加え、ブラックボードからアクセスできるようにし (図1)。4つのセクションはいずれも音声ファイルを利用してコンプリヘンションの力をつけるエクササイズから、意見の述べ方の練習や会話また、読み書き練習をする構成になっている (図2)。各セクションの内容は次の通りである。



図1 日本の社会 ホームページ



図2 第一課 結婚 メニューページ

セクション1： Listening Comprehension を養うオンラインエクササイズ
 会話に基づいて語彙、背景となる情報を学習する。この際、学習者が音声ファイルを聞き内容質問の文章解答を日本語で担当教師に直接送信できるようにプログラムした。また、解答を送信後に模範解答が見られるようにしてある。

セクション2： Opinion Exchanges テーマについて意見を述べる練習

基本語彙や背景を学習したところで、音声ファイルを使いテーマについて自分の意見の述べ方や第三者の意見を紹介する練習ができるようにした。例えば、第一課の場合、テーマである結婚について、見合い結婚と恋愛結婚とどちらの方がいいかという質問に5通りの答えが出るように用意し、音声を聞きながら練習できるようになっている。新しい語彙は右側にリストして音声が聞けるようにして、語彙の意味はポップアップで見られるようにした(図3)。また、同じページの下の方には、この5人の意見を第三者の意見として簡潔にまとめて報告(シノプシス)する練習もある。



図3 第一課 セクション2 結婚についての意見交換

セクション3： Conversation テーマに沿った会話を聞き取る練習

セクション1、2で紹介された語彙や言い回しを含む、まとまったディスコースを聞き取り、さらにセクション2で練習したパターンが実際の会話でどのように使われ、日本語話者がどのようにして意見の交換をしていくか学ぶ。

セクション4： Reading/Writing

セクション1-3で会話体で扱われて来たトピックを文章体で勉強する。日本語での文章の構成を勉強し、自分の意見を論文形式で書く作文練習に発展させる。現在、同様のトピックを扱った生の教材の収集も行っており、既成のオンライン辞書を利用し、各学習者の必要に応じて語彙の検索をしながら、多読練習ができるようなプログラムを開発している。

授業の具体例

ウィリアムズでは、6課を日本語の4年時に2学期かけて終わらせるようなカリキュラムの組み方をしている。オンラインの教材はあくまでも授業の予習、復習のために使われており、学生はオンラインエクササイズを使って新出語彙、表現がスムーズに使えるようになることを前提に授業に望む。セクション1では、語彙、表現を身近な話題と関連づけて練習していき、セクション2、3にすすむにつれて、各課で扱う社会問題に関して、フォーマルな形で自分の意見を口頭で述べられるように練習を重ねて行く。

セクション4の読解練習とともにトピックに関する意見をまとめる作文練習も行う。さらに補助教材で多読練習も積み重ねて行く。それぞれの学期に各課で扱ったトピックに関した

研究プロジェクトを課題としているが、学生は自分で新聞記事、日本語のウェブなどを既成のオンライン辞書を利用して読みこなし、研究論文、口頭発表を行っている。

まとめと今後の課題

本教材の特徴はウェブベースで **Interactive** なものであり、音声とテキストを併用して練習できることにある。学生が習得しなければならない基本の語彙や表現法をコンテキストの中で習得するように構成されている。まず、音声ファイル(会話)を駆使してする練習により、リスニングコンプリヘンションとスピーキングの力をつけながら表現力をつけ、次に、音声とテキストを組み合わせて、読解力をつけながら読み書きへと移行していく。今後、スピーキングの部分ではポッドキャストでの教材配信や、学生がウェブ上で録音できるような機能も試みる予定である。読み書きの課題としては、学生が自由に自分のレベルにあった生の教材を選択できるようなデータベースを用意したい。またブログ等を使っての意見交換も検討中である。

参考資料

- Yamaguchi, Asako (1996). *Meeting the Demand for Advanced Japanese: Designing Curricular for Advanced Learners of Japanese*. The Ohio State University.
- Yamamoto, Kagaya and Yamada. (2000). "The Japanese Society: On-line Advanced Japanese Exercise." Paper presented at Vassar-Williams Andrew W. Mellon Consortium Fall Colloquium.
- Yamada. (2005). "Japanese Society" Project presented at Center for Educational Technology Haverford Workshop.